

日本遺産を通じた地域活性化計画進捗状況報告書

| | | |
|---|--|---------------------|
| ① 日本遺産のタイトル | 和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田 | |
| ② 地域活性化のための取組の実施状況 | | |
| <p>①観光プロモーション基礎調査の結果を踏まえ、PR動画やインフルエンサーを活用したオンラインでの情報発信に加え、ツーリズムEXPOジャパンやJAPAN EXPOなど、海外をターゲットとした情報発信に積極的に取り組んでいるほか、日本遺産を網羅的に取り扱うガイドランスセンターの開設、各種説明板・案内板設置、地元商店街とも協力した取組みとしてタペストリーを制作・設置し、おもてなし体制の充実を図った。</p> <p>②行田市日本遺産推進協議会での議論に加え、将来的に、観光まちづくりに携わることができる人材育成を主な目的とした行田みらい塾、足袋蔵等を活用したまちづくりやそのアリストができる人材育成を主な目的とした足袋蔵コーディネーター養成講座など、将来を見据えた人材育成事業を実施、講座受講者のその後の活動についてもオーガナイズし、活動をアシストしている。</p> <p>③石畳舗装をはじめとした道路の高質空間化を計画に基づき引き続き実施するとともに、幹線道路歩道のせせらぎ空間整備を実施し、中心市街地の回遊性向上と歴史ある城下町に相応しい景観整備に取り組んだ。特に八幡通りについては、まちなみ景観形成モデル事業を実施し、5棟の建物の修景改修を行うとともに、賑わい創出に向けたソフト事業として、行田はちまんマルシェ、花手水weekを毎月実施した。更に、日本遺産の構成資産である大正時代の洋館を中心市街地の公園内に移築・改修・復原し、地域のにぎわい拠点として活用している。</p> <p>④これまでに構成文化財の未指定・未登録の足袋蔵4棟の詳細調査を実施した。また、マーケティングリサーチとして、活用意向調査や現況調査を行い、今後の足袋蔵等の活用指針案を作成した。足袋蔵等についての所有者の活用意向が低いことから、活用意識の高揚と構成資産の周知を図るため、「日本遺産一斉公開」イベントを開催した。</p> <p>⑤足袋産業活性化のための取組みとして官民協働で立ち上げた「足袋のまち行田」活性化推進協議会を中心として、足袋の販路拡大や新商品開発に取り組む足袋事業者を支援しているほか、足袋に関するイベント等の開催による街の活性化に取り組んだ。令和2年3月16日付で国重要有形民俗文化財に指定された「行田の足袋製造用具及び関係資料」について紹介する重要有形民俗文化財指定記念「行田足袋の歴史と製造用具」展を6月2日から6月14日まで実施した。なお、本展開は当初4月25日から6月7日まで実施の予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により6月1日まで休館となったため、期間を変更して実施した。</p> <p>⑥令和3年1月27日に行田市観光協会を行田おもてなし観光局としてDMOの設置を行った。</p> <p>⑦NPOが構成資産の建造物で小学生を対象に「日本遺産のまち 足袋蔵昔体験セミナー」を開催するなど、市民団体等が構成資産の建造物の活用に取り組んだ。</p> | | |
| ③ 目標に対する計画の進捗状況及び効果 | | 定量的なもの：様式1-1別紙①のとおり |
| 定性的なもの (期待される成果) | <p>新型コロナウイルス感染症流行以前は、日本遺産認定とそれに伴う各種事業により、来訪者数が伸び、賑わいが見られ始めていた。しかしながら、感染症流行で状況は暗転した。非常事態宣言解除後、徐々に客足は戻り始めているが、賑わいを取り戻すには時間が掛かるものと思われる。来訪者を呼び込むために、観光協会を発展させてDMOの設置を行った。今後はDMOを中心に来訪者の増加を図って行きたい。</p> <p>その一方で、市民等の日本遺産や足袋蔵等を活かしたまちづくりへ関心は高まっており、2棟の足袋蔵等が再活用に向けて動き始め、八幡通りでは官民による町並み整備も始まった。</p> | |
| ④ 地域活性化のための取組の効果等の検証・分析結果 | | |
| <p>「観光入込客数」については、平成29・30年度は目標値に届いていないものの、認定後に積極的な情報発信を行ってきたこともあり、足袋蔵を再活用した観光案内所や観光施設の入込客数は、順調に増加していた。しかしながら令和元年度は、新型コロナウイルス感染症流行の影響もあり、いずれの施設も入込客数が減少した。感染症流行の終息が見えない状況で、今後も入込客数の低迷は避けられないと思われるが、新しい生活様式の下での積極的な情報発信に努め、観光振興・地域活性化に繋げたい。</p> <p>「地域の文化を誇りに感じる住民の割合」については、意識調査の結果、7割を超える市民が「とても感じる」又は「ある程度感じる」と回答しているが、近年は数値に若干の落ち込みが見られる。更なる普及啓発を目的として、市内小中学生を対象とした日本遺産展示パネルを作成したが、新型コロナウイルス感染症流行の影響で巡回展示が実施できない状況である。今後は、新しい生活様式の下での巡回展示の実施を模索する等、普及啓発の推進に努める。</p> <p>「日本遺産のためのふるさと納税額」については、目標値には達しなかったが、平成30年度は前年度の約255万円から約1割増増加した。しかしながら令和元年度は、ふるさと納税制度厳格化の影響を受けて、また令和2年度は「新型コロナウイルス感染症対策」に関する使途を追加したことで、相対的に日本遺産のための寄附額が減少した。今後の寄附額の大幅な上昇を期待することが難しい状況ではあるが、今後、寄附を充当した事業の効果を広くPRすること等により、寄附額の増加を目指す。</p> <p>「利活用、再活用となった足袋蔵等の件数」については、平成29・30年度と令和2年度に各1件増加し、15件となった。活用に向けた各種調査事業の結果を見ると、依然として所有者の活用意向に関する意識が低いことから、令和元年度は、多くの構成資産を試験的に公開し巡回してもらうイベント「日本遺産一斉公開」を開催するとともに、構成資産それぞれのストーリーを聞き取ってまとめた「日本遺産構成資産ガイドブック」を刊行し、所有者の意識醸成に努めた。そうしたこともあって、2棟の足袋蔵等（構成資産外の歴史的建造物を含む）が活用に向けて動き始めた。令和2年度はコロナ禍でこの2棟の活用は足踏みしてしまっしたが、他の2棟が活用に向けて動き始め、内1棟については活用が始まった。</p> | | |

日本遺産を通じた地域活性化計画における目標と期待される効果【定量的なもの】

| | | | | | | |
|---------|--|--------|-------|-------|-------|-------|
| 設定目標Ⅰ： | 日本遺産を活用した集客・活性化 | | | | | |
| 計画評価指標： | 観光客入込み数 (具体的な指標は次のとおり) | | | | | |
| 具体的な指標： | 行田市の観光客入込み数 | | | | | |
| 目標値： | 平成 28 年度 150万 人 ⇒ 令和 4 年度 200万 人 | | | | | |
| 設定根拠： | 平成26年度～平成28年度の平均対前年度比伸び率△1.5%に対し、毎年度、対前年度比で5%の伸び率達成を設定 | | | | | |
| 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
| 目標値 | 157 | 165 | 173 | 181 | 190 | 200 |
| 実績値 | 144 | 142 | 129 | 57 | | |
| 設定目標Ⅱ： | 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化 | | | | | |
| 計画評価指標： | 地域の文化に誇りを感じる住民の割合 (具体的な指標は次のとおり) | | | | | |
| 具体的な指標： | 市民意識調査の「足袋の文化」や「足袋蔵」に魅力や誇りを感じる割合の上昇率 | | | | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 100 % ⇒ 令和 4 年度 140 % | | | | | |
| 設定根拠： | 平成29年度を基準とし、毎年度、平成29年度比で8%を加算した伸び率の達成を設定 | | | | | |
| 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
| 目標値 | 100 | 108 | 116 | 124 | 132 | 140 |
| 実績値 | 100 | 101 | 101 | 95 | | |
| 設定目標Ⅲ： | 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立 | | | | | |
| 計画評価指標： | 日本遺産のためのふるさと納税額 (具体的な指標は次のとおり) | | | | | |
| 具体的な指標： | ふるさと納税の日本遺産活動への寄附額の上昇率 | | | | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 100 % ⇒ 令和 4 年度 300 % | | | | | |
| 設定根拠： | 平成29年度を基準とし、毎年度、平成29年度比で40%を加算した伸び率の達成を設定 | | | | | |
| 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
| 目標値 | 100 | 140 | 180 | 220 | 260 | 300 |
| 実績値 | 100 | 111 | 55 | 34 | | |
| 設定目標Ⅳ： | その他 | | | | | |
| 計画評価指標： | その他 (具体的な指標は次のとおり) | | | | | |
| 具体的な指標： | 利活用、再活用となった足袋蔵等の件数 | | | | | |
| 目標値： | 平成 28 年度 13 件 ⇒ 令和 4 年度 17 件 | | | | | |
| 設定根拠： | 平成30年度までに新たに1件を活用し、令和2年度以降は毎年度1件の増加数達成を設定 | | | | | |
| 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
| 目標値 | 13 | 14 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 実績値 | 13 | 14 | 14 | 15 | | |

<令和2年度までの事業の効果等（日本遺産魅力発信推進事業）>

| | | | | | | |
|---|---------------------|----------|---------|----------|--------|---------|
| 事業の名称 | 日本遺産「足袋蔵のまち行田」活性化事業 | | | | | |
| 過去の実績 | 平成29年度: | 38,476千円 | 平成30年度: | 23,282千円 | 令和元年度: | 8,687千円 |
| 事業の内容（具体的に記入すること） | | | | | | |
| 平成29年度 <ul style="list-style-type: none"> 情報発信事業として、動画4本制作（BS動画、観光プロモーション動画、足袋の歴史、足袋の製造工程）、日本遺産ウェブサイト（日本語）制作、日本遺産パンフレット（5万部）・のぼり旗（400枚）・看板ポスター作成、ガイドダンスセンター設置、認定記念パネル設置などを実施し、主に国内をターゲットとした情報発信を強化した。また、今後の観光施策の方向性を定めるため、観光プロモーション基礎調査を実施した。 人材育成事業として、観光ガイド育成、藍染・足袋製造実演技術者養成（観光実演・体験指導）を実施した。 普及啓発事業として、日本遺産セミナー開催、日本遺産勉強会（連続講座）開催、ジャパンツーリズムEXPO出展、足袋蔵モニターツアー、足袋づくり体験ツアー（モニターツアー）、足袋検定、日本遺産タペストリー制作を実施し、市民や来訪者に対する意識啓発を実施した。 調査研究事業として、足袋蔵等近代化遺産詳細調査、足袋蔵等再活用マーケティングリサーチを実施した。 公開活用のための整備に係る事業として、観光駐車場への道路案内板、日本遺産案内説明板、既存の説明板に貼り付けするステッカーを作成するなど、おもてなし体制の充実を図った。 | | | | | | |
| 平成30年度 <ul style="list-style-type: none"> 前年度に実施した観光プロモーション基礎調査の結果を踏まえ、情報発信事業として、日本遺産ウェブサイトの多言語化（英語・仏語）、観光パンフレット作成（2万部）、インフルエンサーによるオンラインでの情報発信を実施した。また、郷土博物館に展示する日本遺産の大型展示パネルを作成した。 人材育成事業として、前年度に引き続き、観光ガイド育成と藍染・足袋製造実演技術者養成（観光実演・体験指導）を実施したほか、足袋蔵等を保存・活用したまちづくりやそのアシストができる人材の育成を目的とした、足袋蔵コーディネーター育成講座を実施した。 普及啓発事業として、前年度に引き続きモニターツアーや足袋検定を実施したほか、小中学生を対象とした足袋に関する絵画コンテストや、観光まちづくりを担う人材育成を目的とした行田みらい塾を開催した。また、観光プロモーション基礎調査の結果を踏まえ、フランスで行われる日本文化の祭典JAPAN EXPOに出展した。 調査研究事業として、足袋蔵等近代化遺産詳細調査、また足袋蔵活用に向けたマーケティングリサーチを実施した。 公開活用のための整備に係る事業として、観光駐車場への道路案内板、日本遺産説明板、案内板等を設置した。 | | | | | | |
| 令和元年度 <ul style="list-style-type: none"> 情報発信事業として、平成29年度に実施した観光プロモーション調査の結果を踏まえ、英語圏、仏語圏をターゲットとした新たな観光需要の喚起とリピーターの獲得を目的に、インフルエンサーを活用したSNS等におけるプロモーションを実施した。また、それぞれの媒体におけるフォロワーの反応や影響を踏まえ、今後の海外へ向けたプロモーション活動の展望等を含めた調査分析報告書を作成した。そのほか、日本遺産構成資産各個の所有者、関係者に聞き取り調査を行い、それを基に構成資産のより詳しい内容と資産にまつわる物語（サイドストーリー）を紹介するガイドブックを作成した。 普及啓発事業として、前年度に引き続き足袋検定、行田みらい塾を実施、開催した。 調査研究事業として、足袋蔵等近代化遺産詳細調査、足袋蔵等構成資産の所有者の活用意識向上と、日本遺産及び構成資産の認知度向上のために構成資産を一斉に一般公開するイベントを開催した。 公開活用のための整備に係る事業として、日本遺産説明板、案内板等を設置した。 | | | | | | |
| 令和2年度 <ul style="list-style-type: none"> 情報発信事業として、新たな日本遺産ガイドパンフレットを1万部作成し、配付した。 普及啓発事業として、日本遺産フェスティバルin今治に出展、上田市日本遺産認定記念シンポジウムに参加した。また、構成資産の旧足町信用組合店舗で8月～11月にテアトル・ヴェール「ぎょうだ子どもギャラリー」を開催した。 調査研究事業として、構成資産の行田窯の詳細調査を実施した。 公開活用のための整備に係る事業として、構成資産の武蔵野銀行行田支店店舗の説明板の改修を行った。 行田市観光協会を発展させ、行田おもてなし観光局としてDMOの設置を行った。 | | | | | | |
| 令和2年度までの事業の効果等の検証・分析結果（具体的に記入すること） <p>認定からこれまでの間、日本遺産ウェブサイトや観光パンフレット作成等により、国内外への情報発信に努めてきたが、構成資産の公開・活用が進まないこともあって観光的な魅力が十分に伝わらず、「観光入込客数」については、各年度とも目標値に届いていない。新型コロナウイルス感染症流行の終息が見えず、今後すぐに「観光入込客数」を増やすことは困難であると思われるが、これまでの取り組みを踏まえて、新しい生活様式の下での日本遺産を活かした今後の地域活性化（観光まちづくり）の具体的な戦略を早期に確立したい。</p> <p>一方で、市民を対象とした普及啓発は、認定以前から取り組んできたこともあり、「地域の文化を誇りに感じる住民の割合」については、意識調査の結果、7割を超える市民が「とても感じる」又は「ある程度感じる」と回答しているが、近年は数値に若干の落ち込みが見られる。</p> <p>構成資産である足袋蔵等の多くは、個人所有の建物であり、利活用されていないものが多いことから、認定後は、観光客へのマーケティング調査と併せて、所有者の意向調査を実施してきた。調査の結果、所有者の利活用に関する意識が低いことから、令和元年度に、多くの構成資産を試験的に公開し巡回してもらいイベントを開催した。イベントでは足袋蔵コーディネーター等が活躍し、市民全体の日本遺産に対する関心は高まった。相前後して4棟の足袋蔵等（構成資産外の歴史的建造物を含む）が再活用に向けて動き始め、内1棟は活用が始まった。郷土博物館における足袋の展示については、展示資料が国指定文化財となったこともあり、行田足袋の知名度向上に寄与している。</p> | | | | | | |

＜令和2年度までの事業（日本遺産魅力発信推進事業）＞

| | | | | | | |
|------------------------------------|--|---------------------------------|--------------|----------------|---------------------|-------|
| 事業①： 「足袋・足袋蔵」 デジタルプロモーション事業 | | | | | | |
| 事業区分： | 情報発信 | | | 事業期間： | 平成 29 年度 ～ 令和 元 年度 | |
| 補助金額： | 平成29年度： 17,820千円 | 平成30年度： 543千円 | 令和元年度： | 1,900千円 | | |
| (積算) | PR動画制作 8,910千円 基礎調査・ウェブサイト作成 8,910千円 | ウェブサイト多言語化 543千円 | 英語・仏語プロモーション | 1,900千円 | | |
| 事業概要： | 「足袋と足袋蔵」の魅力と価値を効果的に周知するため、多言語対応のPR動画を制作し、多様なメディアを活用して国内外に広く情報発信する。海外に向けた情報発信については、多くの外国人がアクセスするメディア等を活用する。 | | | | | |
| 評価指標区分： | コンテンツダウンロード数（掲載HPや動画共有サイトでの再生回数等） | | | (具体的な指標は次のとおり) | | |
| 具体的な指標： | PR動画再生回数 | | | | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 36万 回 | | ⇒ 令和 4 年度 | | 120万 回 | |
| 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
| 目標値 | 36万 | 53万 | 70万 | 87万 | 104万 | 120万 |
| 実績値 | 0 | 4万 | 18.3万 | 28万 | | |
| 事業②： 「足袋・足袋蔵」 プロモーション事業 | | | | | | |
| 事業区分： | 情報発信 | | | 事業期間： | 平成 29 年度 ～ 令和 元 年度 | |
| 補助金額： | 平成29年度： 1,835千円 | 平成30年度： 4,990千円 | 平成31年度： | 1,265千円 | | |
| (積算) | PRパンフレット制作 960千円 のぼり旗・看板ポスター制作 875千円 | 観光ガイドブック制作 SNSでの情報発信 4,990千円 | 構成資産ガイドブック制作 | 1,265千円 | | |
| 事業概要： | 「足袋と足袋蔵」の魅力と価値を市民に周知するためのパンフレットや、観光客に配布するためのガイドブック等を制作するほか、プロガー等のインフルエンサーを活用して、国内外へのプロモーション活動の強化を図る。 | | | | | |
| 評価指標区分： | 補助事業終了後のパンフレット等コンテンツ増刷数（自主事業分） | | | (具体的な指標は次のとおり) | | |
| 具体的な指標： | 補助事業終了後のパンフレット等コンテンツ増刷数（自主事業分） | | | | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 10万 部 | | ⇒ 令和 4 年度 | | 20万 部 | |
| 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
| 目標値 | 10万 | 12万 | 14万 | 16万 | 18万 | 20万 |
| 実績値 | 2万 | 4万 | 5.5万 | 6.5万 | | |
| 事業③： 日本遺産認定記念ブース及び日本遺産ガイドンスセンターの設置 | | | | | | |
| 事業区分： | 情報発信 | | | 事業期間： | 平成 29 年度 ～ 平成 29 年度 | |
| 補助金額： | 平成29年度： 1,933千円 | 平成30年度： 0千円 | 令和元年度： | 297千円 | | |
| (積算) | ブース展示作製 375千円 ガイドンセンター展示作成 1,558千円 | | 展示キット等作製 | 297千円 | | |
| 事業概要： | 市民や来訪者に日本遺産の周知を広めるため、特設ブースの設置するとともに、回遊拠点を整備するために日本遺産ガイドンスセンターを設置する。小中学校等で巡回展示を行うための展示キットの製作を行い、巡回展示を実施する。 | | | | | |
| 評価指標区分： | その他 | | | (具体的な指標は次のとおり) | | |
| 具体的な指標： | ブース及びガイドンスセンターへの来場者数 | | | | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 1,000 人 | | ⇒ 令和 4 年度 | | 2,000 人 | |
| 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
| 目標値 | 1,000 | 1,200 | 1,400 | 1,600 | 1,800 | 2,000 |
| 実績値 | 4,306 | 7,060 | 15,088 | 12,888 | | |

| | | | | | | | |
|--------------------------|--|---------|---|--------------------|---------------------|---------|-----------|
| 事業④： 郷土博物館における足袋関連の展示の充実 | | | | | | | |
| 事業区分： | 情報発信 | | | 事業期間： | 平成 29 年度 ～ 平成 30 年度 | | |
| 補助金額： | 平成29年度： | 3,729千円 | 平成30年度： | 1,788千円 | 令和元年度： | 0千円 | |
| (積算) | 多言語音声ガイド 3,729千円 | | 展示パネル制作 1,788千円 | | | | |
| 事業概要： | 展示室に外国人来訪者に対応するための多言語音声ガイドを導入する。足袋関連の壁面展示パネルを製作する。 | | | | | | |
| 評価指標区分： | その他 | | | (具体的な指標は次のとおり) | | | |
| 具体的な指標： | 郷土博物館の入館者数 | | | | | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 | | 80,000 人 | ⇒ | 令和 4 年度 | | 100,000 人 |
| 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | |
| 目標値 | 80,000 | 83,000 | 87,000 | 90,000 | 95,000 | 100,000 | |
| 実績値 | 90,807 | 83,720 | 79,327 (内外国人357) | 51,171 (内外国人87) | | | |
| 事業⑤： 観光ガイド育成事業 | | | | | | | |
| 事業区分： | 人材育成 | | | 事業期間： | 平成 29 年度 ～ 平成 30 年度 | | |
| 補助金額： | 平成29年度： | 197千円 | 平成30年度： | 383千円 | 令和元年度： | 0千円 | |
| (積算) | 研修講師謝金 197千円 | | 研修講師謝金 事務費 383千円 | | | | |
| 事業概要： | 観光客の受入体制を強化するため、観光ガイドを新規に育成するとともに、既存の観光ガイドの知識の向上などの人材育成を行う。 | | | | | | |
| 評価指標区分： | ガイド利用者数 | | | (具体的な指標は次のとおり) | | | |
| 具体的な指標： | 観光ガイドの利用回数 | | | | | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 | | 50 回 | ⇒ | 令和 4 年度 | | 300 回 |
| 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | |
| 目標値 | 50 | 100 | 150 | 200 | 250 | 300 | |
| 実績値 | 136 | 142 | 101 | 24 | | | |
| 事業⑥： 足袋蔵コーディネーター育成事業 | | | | | | | |
| 事業区分： | 人材育成 | | | 事業期間： | 平成 30 年度 ～ 平成 30 年度 | | |
| 補助金額： | 平成29年度： | 0千円 | 平成30年度： | 1,300千円 | 令和元年度： | 0千円 | |
| (積算) | | | ポスター・パンフレット作製費132千円 会場使用料 40千円 講師謝金 300千円 指導者謝金150千円 スタッフ賃金 108千円 実習・ワークショップ消耗品 費 570千円 | | | | |
| 事業概要： | 日本遺産の意義とストーリーを語り継ぐ人材や、足袋蔵の保存・活用、足袋蔵を保存・活用したまちづくりをアシストしてくれる人材を育成する。 | | | | | | |
| 評価指標区分： | コーディネーター等育成講座修了者による活動件数 | | | (具体的な指標は次のとおり) | | | |
| 具体的な指標： | コーディネーター等による活動件数 | | | | | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 | | 0 件 | ⇒ | 令和 4 年度 | | 10 件 |
| 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | |
| 目標値 | 0 | 1 | 3 | 5 | 7 | 10 | |
| 実績値 | 0 | 1 | 8 | 3 | | | |

| | | | | | | |
|-------------------------------|---|--------|--|------------|---------------------|---------|
| 事業⑦： 藍染・足袋製造実演技術者養成～観光実演・体験指導 | | | | | | |
| 事業区分： | 人材育成 | | | 事業期間： | 平成 29 年度 ～ 平成 30 年度 | |
| 補助金額： | 平成29年度： | 648千円 | 平成30年度： | 972千円 | 令和元年度： | 0千円 |
| (積算) | 観光実演・体験指導業務委託 648千円 | | 講師謝金254千円 スタッフ謝金156千円 会場使用料180千円 消耗品費160千円 その他経費222千円 | | | |
| 事業概要： | 足袋製造、藍染について観光客向けに解説しながら実演する技術者、観光客に足袋製造、藍染の体験を指導できる技術者を養成する。体験指導者育成も兼ねた足袋づくり、藍染の小物等作成のイベントも開催する。 | | | | | |
| 評価指標区分： | コーディネーター等育成講座修了者による活動件数 | | | | (具体的な指標は次のとおり) | |
| 具体的な指標： | 藍染・足袋製造実演技術者による観光実演・体験指導の件数 | | | | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 | | 100 件 | ⇒ 平成 34 年度 | | 400 件 |
| 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
| 目標値 | 100 | 150 | 200 | 260 | 330 | 400 |
| 実績値 | 3 | 21 | 98 | 34 | | |
| 事業⑧： JAPAN EXPO 出展 | | | | | | |
| 事業区分： | 普及啓発 | | | 事業期間： | 平成 30 年度 ～ 平成 30 年度 | |
| 補助金額： | 平成29年度： | 千円 | 平成30年度： | 3,703千円 | 令和元年度： | 0千円 |
| (積算) | | | 旅費(旅券・宿泊) 1,299千円 通訳料 203千円 出展料等 1,759千円 展示パネル・パンフレット作成 443千円 | | | |
| 事業概要： | フランスのパリで毎年開催される日本文化の祭典「JAPAN EXPO PARIS」に出展し、行田足袋や足袋蔵のまち行田のPRを行う。またイベント内で足袋のファッションコンテストを開催して入賞者を行田に招待し、足袋づくり等を体験した上でSNSで情報発信してもらう。また、出展及びアンバサダー(入賞者)を通して、外国人の趣味・趣向を的確に捉え、効果的な海外への情報発信を行う。 | | | | | |
| 評価指標区分： | その他 | | | | (具体的な指標は次のとおり) | |
| 具体的な指標： | SNSでの情報発信に対する「いいね」の数 | | | | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 | | 0 人 | ⇒ 令和 4 年度 | | 3,000 人 |
| 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
| 目標値 | 0 | 1,000 | 2,000 | 3,000 | 3,000 | 3,000 |
| 実績値 | 0 | 847 | 1,136 | 1,279 | | |
| 事業⑨： 「行田みらい塾」の開催 | | | | | | |
| 事業区分： | 普及啓発 | | | 事業期間： | 平成 30 年度 ～ 令和 元 年度 | |
| 補助金額： | 平成29年度： | | 平成30年度： | 1,800千円 | 令和元年度： | 1,538千円 |
| (積算) | | | ワークショップ運営 1,800千円 | | ワークショップ運営 1,538千円 | |
| 事業概要： | 将来的にまちづくりに携わることができる人材の育成に主眼をおいた市民や市内事業者などが参加するワークショップ「行田みらい塾」を開催する。 | | | | | |
| 評価指標区分： | その他 | | | | | |
| 具体的な指標： | 市民意識調査の「足袋の文化」や「足袋蔵」に魅力や誇りを感じる割合 | | | | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 | | 100 % | ⇒ 令和 4 年度 | | 140 % |
| 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和 2 年度 | 令和 3 年度 | 令和 4 年度 |
| 目標値 | 100 | 108 | 116 | 124 | 132 | 140 |
| 実績値 | 100 | 101 | 101 | 95 | | |

| | | | | | | |
|---------------------------|--|--------|-------|----------------|-------|-------|
| 事業⑩：日本遺産シンポジウムの開催等 | | | | | | |
| 事業区分：普及啓発 | 事業期間：平成 29 年度 ～ 平成 29 年度 | | | | | |
| 補助金額：平成29年度：738千円 | 平成30年度：0千円 令和元年度：0千円 | | | | | |
| (積算) | 資料・看板作製費 338千円 講師謝金 75千円 諸経費 39千円 ツリス'メXPO負担金 286千円 | | | | | |
| 事業概要： | 「足袋の行田か行田の足袋か」と謳われ、日本遺産としての「足袋と足袋蔵」の魅力を広く市民、地域、全国へ発信するためにシンポジウムを開催する。 | | | | | |
| 評価指標区分： | 日本遺産の認知度 (具体的な指標は次のとおり) | | | | | |
| 具体的な指標： | 日本遺産構成文化財「足袋とくらしの博物館」を見学を訪れる市民の数 | | | | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 100 人 ⇒ 令和 4 年度 400 人 | | | | | |
| 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
| 目標値 | 100 | 150 | 200 | 260 | 330 | 400 |
| 実績値 | 100 | 480 | 312 | 30 (内外国人2) | | |
| 事業⑪：日本遺産勉強会・講座の開催 | | | | | | |
| 事業区分：普及啓発 | 事業期間：平成 29 年度 ～ 平成 30 年度 | | | | | |
| 補助金額：平成29年度：96千円 | 平成30年度：219千円 令和元年度：0千円 | | | | | |
| (積算) | 講師謝金 50千円 バス借上げ料 46千円 資料印刷費 149千円 その他経費 101千円 講師謝金 120千円 バス借上げ料 47千円 その他経費 52千円 | | | | | |
| 事業概要： | 市民に対して、日本遺産としての「足袋と足袋蔵」に勉強会や講座を開催し、故郷としての誇り、日本遺産に対する理解と愛着を持ち、まちづくりへの参画意識を高揚する。 | | | | | |
| 評価指標区分： | 日本遺産の認知度 (具体的な指標は次のとおり) | | | | | |
| 具体的な指標： | 行田市日本遺産ガイダンスセンターを訪れる市民の数 | | | | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 0 人 ⇒ 令和 4 年度 300 人 | | | | | |
| 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
| 目標値 | 0 | 100 | 150 | 200 | 250 | 300 |
| 実績値 | 86 | 1,120 | 864 | 540 (内外国人5) | | |
| 事業⑫：足袋蔵モニターツアー・足袋づくり体験ツアー | | | | | | |
| 事業区分：普及啓発 | 事業期間：平成 29 年度 ～ 平成 30 年度 | | | | | |
| 補助金額：平成29年度：1,960千円 | 平成30年度：1,822千円 令和元年度：0千円 | | | | | |
| (積算) | ツアー等開催費 1,960千円 ツアー等開催費 1,822千円 | | | | | |
| 事業概要： | 行田の足袋や足袋産業の歴史や足袋蔵について、広く周知するとともに、意見集約のためモニターツアーを実施する。また、足袋作り体験ができるツアーなどを実施する。 なお、各年度の意見集約の結果を踏まえ、毎年度対象者を変更して開催する。 | | | | | |
| 評価指標区分： | その他 (具体的な指標は次のとおり) | | | | | |
| 具体的な指標： | アンケート調査による観光客の満足度 | | | | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 50 % ⇒ 令和 4 年度 80 % | | | | | |
| 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
| 目標値 | 50 | 56 | 62 | 68 | 74 | 80 |
| 実績値 | 62 | 56 | 55 | 67 | | |

| | | | | | | | |
|---------|--|---------|----------|----------------|---------------------|--------|---------|
| 事業⑬： | 足袋検定の実施 | | | | | | |
| 事業区分： | 普及啓発 | | | 事業期間： | 平成 29 年度 ~ 令和 元 年度 | | |
| 補助金額： | 平成29年度： | 197千円 | 平成30年度： | 356千円 | 令和元年度： | 198千円 | |
| (積算) | 問題・回答印刷費 | 197千円 | 問題・回答印刷費 | 356千円 | 問題・回答印刷費 | 198千円 | |
| 事業概要： | 行田の足袋や足袋産業の歴史などについての知識を問う検定等を実施することにより、普及啓発を図る。 | | | | | | |
| 評価指標区分： | 日本遺産の認知度 | | | (具体的な指標は次のとおり) | | | |
| 具体的な指標： | 行田足袋の歴史に関心をもつ人数 | | | | | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 | | 1,000 人 | ⇒ | 令和 4 年度 | | 2,000 人 |
| 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 平成32年度 | 平成33年度 | 平成34年度 | |
| 目標値 | 1,000 | 2,000 | 2,000 | 2,000 | 2,000 | 2,000 | |
| 実績値 | 800 | 2,000 | 1,000 | 0 | | | |
| 事業⑭： | 日本遺産タペストリーの作製・設置 | | | | | | |
| 事業区分： | 普及啓発 | | | 事業期間： | 平成 29 年度 ~ 平成 29 年度 | | |
| 補助金額： | 平成29年度： | 1,199千円 | 平成30年度： | 0千円 | 令和元年度： | 0千円 | |
| (積算) | 作製費 | 1,199千円 | | | | | |
| 事業概要： | 日本遺産に認定されたことを周知するとともに、観光客の受け入れ体制の一環として、タペストリーを作製し、中心市街地に設置する。併せて市民意識の醸成を図る。 | | | | | | |
| 評価指標区分： | その他 | | | (具体的な指標は次のとおり) | | | |
| 具体的な指標： | 日本遺産に認定されていることを認知している割合 | | | | | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 | | 50 % | ⇒ | 令和 4 年度 | | 80 % |
| 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | |
| 目標値 | 50 | 56 | 62 | 68 | 74 | 80 | |
| 実績値 | 73.7 | 65.5 | 65.6 | 65.5 | | | |
| 事業⑮： | 小中学生による、足袋に関する絵画コンテスト | | | | | | |
| 事業区分： | 普及啓発 | | | 事業期間： | 平成 30 年度 ~ 平成 30 年度 | | |
| 補助金額： | 平成29年度： | 0千円 | 平成30年度： | 25千円 | 令和元年度： | 0千円 | |
| (積算) | | | 印刷費 | 25千円 | | | |
| 事業概要： | 市内の小・中学生を対象に、足袋、足袋蔵、足袋工場等「足袋をテーマにした絵画(図工・総合等の時間を活用)」のコンテストを行い、「足袋」についてこれまで以上に興味・関心を高めることを通して「ふるさと行田」を愛する心を育てる。 | | | | | | |
| 評価指標区分： | その他 | | | (具体的な指標は次のとおり) | | | |
| 具体的な指標： | アンケート調査による児童・生徒の理解度 | | | | | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 | | 0 % | ⇒ | 令和 4 年度 | | 80 % |
| 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | |
| 目標値 | 0 | 50 | 58 | 66 | 73 | 80 | |
| 実績値 | 0 | 63 | 0 | 0 | | | |

| | | | | | | |
|---------------------------|--|---------|---|----------------|--------------------------------|---------|
| 事業⑩： 足袋蔵等の近代化遺産の詳細調査 | | | | | | |
| 事業区分： | 調査研究 | | | 事業期間： | 平成 29 年度 ～ 令和 元 年度 | |
| 補助金額： | 平成29年度： | 130千円 | 平成30年度： | 2,333千円 | 令和元年度： | 340千円 |
| (積算) | 調査経費 130千円 | | 歴史的建造物調査・実測人件費 972千円 その他の経費 1,361千円 | | 調査経費 340千円 | |
| 事業概要： | 構成文化財の未指定・未登録の足袋蔵等歴史的建造物について、実測図作成等の詳細調査を行うと共に、所有者に対して、今後の保存・改修等の意思確認や活用の意向調査を実施する。 | | | | | |
| 評価指標区分： | その他 | | | (具体的な指標は次のとおり) | | |
| 具体的な指標： | 日本遺産の構成資産として記載された説明板の件数 | | | | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 | | 4 件 | ⇒ 令和 4 年度 | | 10 件 |
| 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
| 目標値 | 4 | 9 | 9 | 9 | 9 | 10 |
| 実績値 | 4 | 9 | 10 | 10 | | |
| 事業⑪： 足袋蔵等再活用のマーケティング・リサーチ | | | | | | |
| 事業区分： | 調査研究 | | | 事業期間： | 平成 29 年度 ～ 令和 元 年度 | |
| 補助金額： | 平成29年度： | 2,320千円 | 平成30年度： | 2,970千円 | 令和元年度： | 2,223千円 |
| (積算) | 活用意向調査経費 1,231千円 観光動向マーケティング調査経費 733千円 諸経費 356千円 | | 活用意向調査経費 400千円 建築者現況調査経費 528千円 活用プラン作成 549千円 レポート作成経費 367千円 その他の経費 1126千円 | | イベント開催費 1,424千円 調査分析費 799千円 | |
| 事業概要： | 来訪者の動向から観光振興に今後必要な商業施設等をリスト・アップするマーケティング調査を行う。並行して、⑩の事業で調査を行う以外の足袋蔵等の所有者に対して今後の保存・改修等の意思確認や活用の意向調査を実施する。2つの調査の結果を踏まえ、今後の足袋蔵等の活用指針を策定するとともに、調査で把握された施設整備のニーズの具現化に向けたプランの作成及び日本遺産を活用した中心市街地のまちづくりイメージ図を作成する。活用の機運醸成のために公開・活用イベントを実施するとともに、イベント参加者の行動調査とアンケート調査を行う。 | | | | | |
| 評価指標区分： | その他 | | | (具体的な指標は次のとおり) | | |
| 具体的な指標： | 新たな活用が行われた足袋蔵等歴史的建造物の件数 | | | | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 | | 0 件 | ⇒ 令和 4 年度 | | 4 件 |
| 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
| 目標値 | 0 | 1 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 実績値 | 1 | 2 | 2 | 3 | | |

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|-------|-------|
| 事業⑩： ぱっとわかる案内板設置事業 | | | | | | |
| 事業区分： | 公開活用のための整備 | | | | | |
| 事業期間： | 平成 29 年度 ～ 令和 元 年度 | | | | | |
| 補助金額： | 平成29年度： 5,323千円 平成30年度： 4,783千円 令和元年度： 645千円 | | | | | |
| (積算) | <table border="1"> <tr> <td>案内看板設置費 5,323千円 (内訳) 道路案内板 230千円×10基 総合案内板 350千円×6基 案内看板(小型) 80千円×5基 案内看板(自動車用) 190×1基 説明板 70千円×4基 ステッカー 53千円</td> <td>案内看板設置費 4,783千円 (内訳) 道路案内板 229千円×10基 大型案内説明板 457千円×1基 中型案内看板 249千円×6基 小型案内板 133千円×1基 中型説明板 150千円×2基 小型説明板 39千円×3基</td> <td>案内看板設置費 645千円 (内訳) 大型説明板 247千円×1基 中型案内板 248千円×1基 ステッカー 150千円</td> </tr> </table> | 案内看板設置費 5,323千円 (内訳) 道路案内板 230千円×10基 総合案内板 350千円×6基 案内看板(小型) 80千円×5基 案内看板(自動車用) 190×1基 説明板 70千円×4基 ステッカー 53千円 | 案内看板設置費 4,783千円 (内訳) 道路案内板 229千円×10基 大型案内説明板 457千円×1基 中型案内看板 249千円×6基 小型案内板 133千円×1基 中型説明板 150千円×2基 小型説明板 39千円×3基 | 案内看板設置費 645千円 (内訳) 大型説明板 247千円×1基 中型案内板 248千円×1基 ステッカー 150千円 | | |
| 案内看板設置費 5,323千円 (内訳) 道路案内板 230千円×10基 総合案内板 350千円×6基 案内看板(小型) 80千円×5基 案内看板(自動車用) 190×1基 説明板 70千円×4基 ステッカー 53千円 | 案内看板設置費 4,783千円 (内訳) 道路案内板 229千円×10基 大型案内説明板 457千円×1基 中型案内看板 249千円×6基 小型案内板 133千円×1基 中型説明板 150千円×2基 小型説明板 39千円×3基 | 案内看板設置費 645千円 (内訳) 大型説明板 247千円×1基 中型案内板 248千円×1基 ステッカー 150千円 | | | | |
| 事業概要： | 行田市を訪れた観光客が容易に移動できるように、誰もが見やすく、わかりやすい案内板を設置する。またインバウンド観光の環境整備の一環として、外国語表記の案内板を設置する。 | | | | | |
| 評価指標区分： | 観光客の満足度 (具体的な指標は次のとおり) | | | | | |
| 具体的な指標： | アンケート調査による観光客の満足度 | | | | | |
| 目標値： | 平成 29 年度 50 % ⇒ 令和 4 年度 80 % | | | | | |
| 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
| 目標値 | 50 | 56 | 62 | 68 | 74 | 80 |
| 実績値 | 62 | 56 | 55 | 67 | | |